

# 代表質問(要旨)



養成確保が求められる医療従事者 (医師)

進めたい。備を着実にしながら整備を進めたい。

議員 南北格差解消に向け「産業活性化に関する指針」の東北地域における具現化の観点から、抜本的な産業振興策による東北振興を望むが、どう進めるのか。

議員(民主) 日立市はじめ本県の海岸では、昨年十月の低気圧で防潮護岸の倒壊等の被害が生じた。海岸の災害復旧は防災上重要であり、平成十六年策定の茨城沿岸海岸保全基本計画で管

理者等における体制づくりを提案しているが、今後どう保全していくのか。

議員 非正規雇用からの希望者は可能な限り正規雇用へ転換すべきであり、子育てや介護で離職した人たちの再就職を促進する仕組みの創設や拡充も必要である。

## 医師の地域的偏在への対応は 修学資金貸与枠の拡大等で 養成確保

**質問者**  
鶴岡 正彦 (自由民主党)  
江田 隆記 (自民県政クラブ)  
長谷川修平 (民主党)  
足立 寛作 (公明党)



対人関係を築くためのトレーニング

職員した方々向けに十九年度新たに再就業促進研修を実施する。助産師については、四月より中央看護専門学校助産科の定員を十五名から二十五名に大幅増員することで対応

議員 新型インフルエンザ対策をどう進めるか。特に県内での最大の想定患者数が五十八万人であるのに対し、県は治療薬「タミフル」を二十五万人分しか備蓄する予定がないが、大流行時にどう対処するのか伺う。

議員(自民) 本県は看護師、助産師の人口当たりの人数がそれぞれ全国四十五位、四十六位と全国最低レベルにあるが、看護師、助産師の確保にどう取り組むのか伺う。

知事 この四月に二校、平成二十年度以降に数か所の看護師養成施設新設の動きがある。看護師については、今後とも養成施設を整備促進するとともに、離職防止策を講じるほか、出産などで一旦離職した方々

知事 国が早期対応や医療体制についての「新型ガイドライン」を策定中であり、県はこれに沿って具体的な対応策を定めるとともに実地訓練など実施する予定である。タミフルについては、更

## 子どもの人間関係を築く力の養成は 平成十九年度から「仲間同士の 絆づくりプロジェクト」を実施

知事 ものづくり産業活性化プロジェクトやマグネシウムプロジェクトの推進、中性子利用促進研究会でのJ-PARCの産業利用につながる研究、国道六号バイパスや久慈川の榊橋等の整備で東北地域の利便性を高

知事 修学資金貸与枠の拡大のほか、後期研修医を不足地域の医療機関に派遣するための支援等により、医師の養成確保に取り組む。東北臨海地域は日製日立総合病院に地域救命センター

の役割を担っていただきたいと考えており、地元や周辺市町村、医師会等と連携し、できる限り支援する。(ほかに、行財政改革の推進、住宅供給公社の抜本対策、教育委員会のあり方なども質問)

組んでいくのか伺う。

教育長 平成十九年度から「仲間同士の絆づくりプロジェクト」を実施する。これは、対人関係を築く具体的な場面を用意し、例えば悩みを相談する側と聞く側の役割演技をさせ、ロールプレイで、双方の気持ちを体験的に学ばせることで、好ましい人間関係を築く力を身に付けさせるものである。

議員 この四月より養護学校が特別支援学校に移行し、周辺小中学校の特殊学級在席の児童生徒の教育を支援していくこととなるが、どう取り組んでいくのか、また、養護学校の教室不足などの課題をこの移行の過程でどう解決していくのか。

教育長 管理職や学級担任への研修、コーディネーター養成などの校内支援体制づくりや特別支援学校内に相談支援部を設け小中学校に相談・助言する。また、教室不足などの課題解決については閉校となる校舎の活用なども含めて広い角度から検討していく。

(ほかに、農産物販売戦略、警察署等再編問題なども質問)